

令和5年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

- ・「いきよう」・・・安全・安心な教育環境を基盤に、児童生徒一人ひとりの命と人権を守る学校
- ・「のびよう」・・・児童生徒の知識の深化・技能の向上及び協働する心を育て、自立を支援する学校
- ・「てをつなごう」・・・南河内の歴史と文化に触れ、地域の人々とともに共生する学校

2 中期的目標

1 開かれた学校づくりと安全・安心な学校づくりの推進

- (1) 一人ひとりの人権を尊重し、多様性を認め合い、安心・安全な学校づくりに向けた組織運営や環境の充実を図る。
- (2) 学校外の専門人材や関係諸機関との連携を深め、児童生徒一人ひとりの課題に対応できる取組みを図る。
- (3) 防災・防犯意識を高め、迅速な危機管理対応ができるような取組みを図る。
- (4) 学校ホームページにおける情報発信のさらなる充実を図る。

*学校教育自己診断のHPに関する項目の肯定的意見を令和7年度までに100%とする。(R2 80% R3 88% R4 84%)

2 特別支援教育の専門性向上と児童生徒の「生きる力」を育む教育の実践

- (1) 児童生徒の個に応じた支援・指導を行うために、研修やOJTを通じた教員のアセスメント力を高める取組みを図る。
- (2) 「主体的・対話的で、深い学び」に向けた授業のあり方を追求し、積極的な授業改善やICT機器の活用を通じた教育の充実を図る。
- (3) 卒業後を見据えた「生きる力」を育むために、小・中・高が連携し、一貫したキャリア教育の推進を図る。

*学校教育自己診断の「将来の希望や職業などについて適切な指導」項目の肯定的意見を令和7年度までに95%とする。(R2 90% R3 81% R4 87%)

3 南河内地域における支援教育のセンター的役割の充実と地域連携の強化

- (1) 南河内地域における特別支援教育の力量向上のため、関係機関と連携し、特別支援教育のセンター校としての役割をさらに充実する。
- (2) 地元住民や地元企業との連携を深め、防災をはじめとした協働での取組みを充実する。
- (3) ボッチャクラブの活動を通して、障がい者スポーツへの理解・関心を高める。

4 「働き方改革」の推進

- (1) 学校教育活動全般を通して、業務の精選や業務の効率化を図り、時間外勤務時間の縮減を図る。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和 年 月実施分]	学校運営協議会からの意見

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R4年度値]	自己評価
1 開かれた学校づくりと安全・安心な学校づくりの推進	(1) 安心・安全な学校づくりのための組織運営の推進 (2) 外部人材や校内の人材活用を通して、安全に対する教員の意識を高め、専門性を向上させる (3) 外部人材を活用した家庭教育への支援の充実 (4) 防災体制の組織的確立	(1) ①人権に関する教職員研修を実施し、人権に関する授業を行う ②保健部における部内組織の再編を行い、医療的ケアの安全で円滑な実施を行う ③食物アレルギーの定例研修を行う (2) 外部専門家、本校自立活動アドバイザーによる巡回相談を実施する。 (3) 外部専門家による保護者参加の研修会や巡回相談を実施する。 (4) ①防災体制に対する教職員一人ひとりの意識の向上のため、BCPに基づいた訓練および外部専門家	(1) ①教職員研修、授業(全学年)とも学期に1回。[研修年2回授業年1回] ②学校教育自己診断における「学校は、児童生徒の健康・安全について適切に対処している」の項目についての肯定的意見95%以上[94%] ③研修年2回実施[1回] (2) 学校教育自己診断における「学校は、肢体不自由児支援教育の専門性を備えている」の項目についての肯定的意見95%[91%] (3) PTAと連携し、保護者を対象に、外部人材を活用した相談会や研修会等を3回以上を維持[3回] (4) ①年3回以上[3回] ②学校教育自己診断におけ	

府立藤井寺支援学校

	(5) 学校ホームページの充実	による研修（公開研修を含む）を実施する。 ②防災体制の組織的確立のため、担当首席を中心として、防災対策PTから各学部・分掌への体制へ移行準備し、令和5年度中に移行完了 (5) ・学校ブログの積極的更新をはじめ、PTAとも連携しながら内容の充実を図る。	る「学校は、防災に対する意識を高める取り組みを行っている」の項目についての肯定的意見97%以上[96%] (5) 学校教育自己診断における「HPを見たことがある」の項目についての肯定的意見90%以上[84%]	
2 特別支援教育の専門性向上と児童生徒の「生きる力」を育む教育の実践	(1) 肢体不自由児教育の専門性を高め、授業力向上のための校内体制の充実 (2) 「主体的・対話的で深い学び」の観点から授業改善を進める (3) 小中高の連携によるキャリア教育の推進	(1) ①指導教諭を中心として、新転任者研修の他に、肢体不自由児教育の専門性を高める研修や指導を行う ②自立活動の充実を図るため、自立活動チェックシートを改訂して、個別の指導計画作成に活用させる。 (2) ①校内授業研究（JSS）をさらに推進し、オーダー集を整理・分析したシートを活用し、授業改善につなげる。 ②教育課程検討委員会を立ち上げ観点別評価を踏まえた個別の指導計画の様式改訂を行う。 (3) ①キャリア教育全体計画の作成 ②学部別に検討していた教育課程編成を全学部で会議を行いながらキャリア教育の推進を行う ③各学部、学校間交流を促進する。	(1) ①研修・自立活動相談に対する指導を含めて15回以上、また研修後のアンケートの理解度80%以上[新] ②今年度中にチェックシート改訂完了 (2) ①小学部24回[24回]、中学部4回[4回]高等部8回[8回]を維持する。 学校教育自己診断における「お子さんは、授業がわかりやすく楽しいと感じている」の項目について95%以上を維持[97%] ②今年度中の完成 (3) ①1学期中に完成させ、2学期、3学期にかけて、キャリア教育検討委員会を開催し、改善点や修正点を検討する。 ②教育課程検討委員会会議を学期に1回開催する ③学校教育自己診断において「学校は、地域の学校との『交流及び共同学習』を積極的に行っている」の項目について肯定的意見95%以上[92%]	
3 南河内地域における支援教育の強化 実と地域連携の強化	(1) 地域支援のセンター的機能をさらに高め、地域支援を積極的に行う。 (2) 地元住民や地元企業との連携を深め、協働した取り組みを行う (3) 障がい者スポーツの普及・啓発	(1) ①自立活動アドバイザーを中心としたチームによる地域支援活動を積極的に行う ②校区内各市町村に案内ビラ等を配布して支援カフェを充実する (2) ①防災研修（公開）に川北地区住民や地元企業に参加していただく ②地域資源や学校ボランティアと連携した活動を推進 ③防災をはじめ、地域との連携を深めるために定期的な意見交換を行う (3) ポッチャ協議を通じた児童生徒の育成と地域への普及	(1) ①巡回教育相談、教職員対象研修など17件以上[16件] ②カフェ相談件数9件以上[8件] (2) ①防災研修（公開）への参加件数2件以上[2件] ②5件以上[5件] ③学期に1回開催 (3) ①ポッチャ甲子園等外部競技大会に参加 ②出前授業、交流行事等を促進2件以上[0件]	
進4 「働き方改革」の推	(1) 業務の精選、効率化を図り、時間外勤務時間の縮減を図る	(1) ①一斉定時退庁日を週1回設定する。 ②分掌業務の精選、学校行事の見直し（行事の開催方法や日程の変更等）により教員の負担感を低減する。	(1) ①時間外勤務時間月45時間以上0 ②学校教育自己診断に「働き方改革」に関する項目を加え、教職員の肯定的意見80%以上	